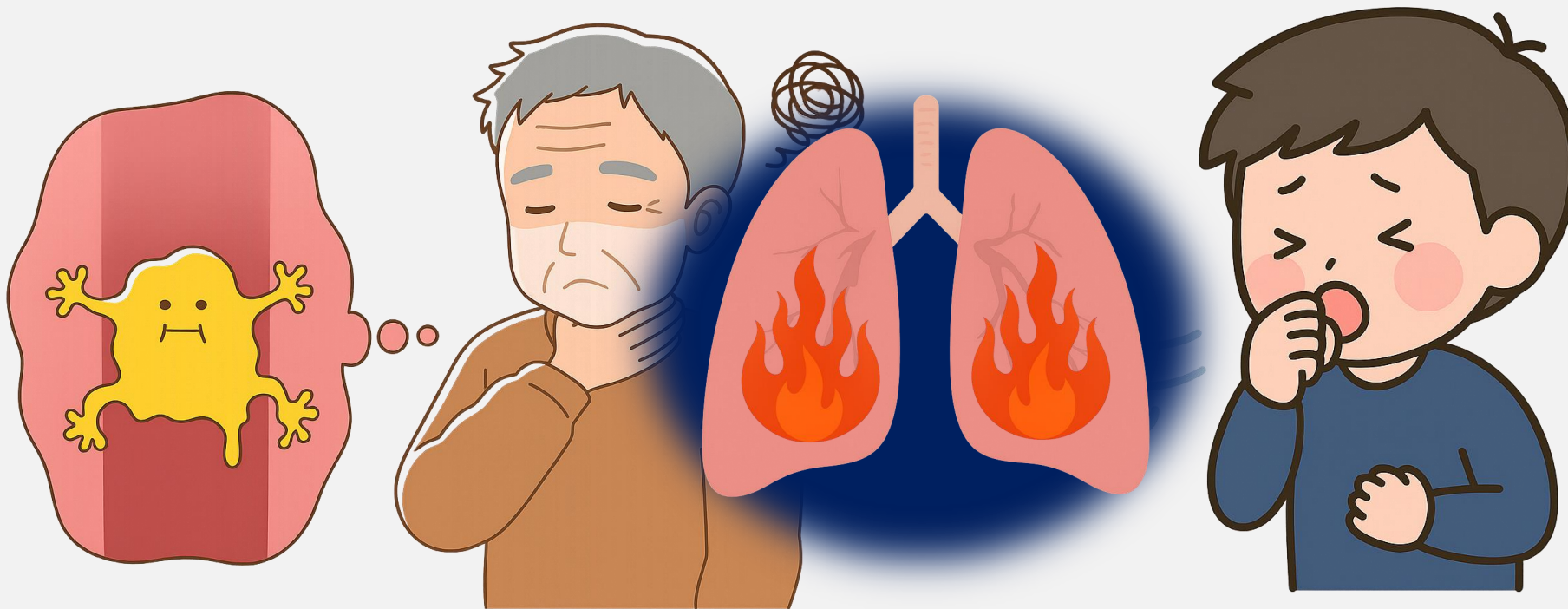


# 漢方からみる臓腑弁証③肺・腎

いが漢方内科金のさじ診療所

伊賀文彦

## 肺の弁証



## 肺の生理機能

- 百脈を朝し、治節を主る
- 気を主る
- 呼吸を司る
- 宣発・肅降を主る
- 水道を通調する
- 合は被毛である
- 鼻に開竅する
- 涕は肺液である
- 志は憂である
- 肺は五臓の華蓋である
- 嬌臓である

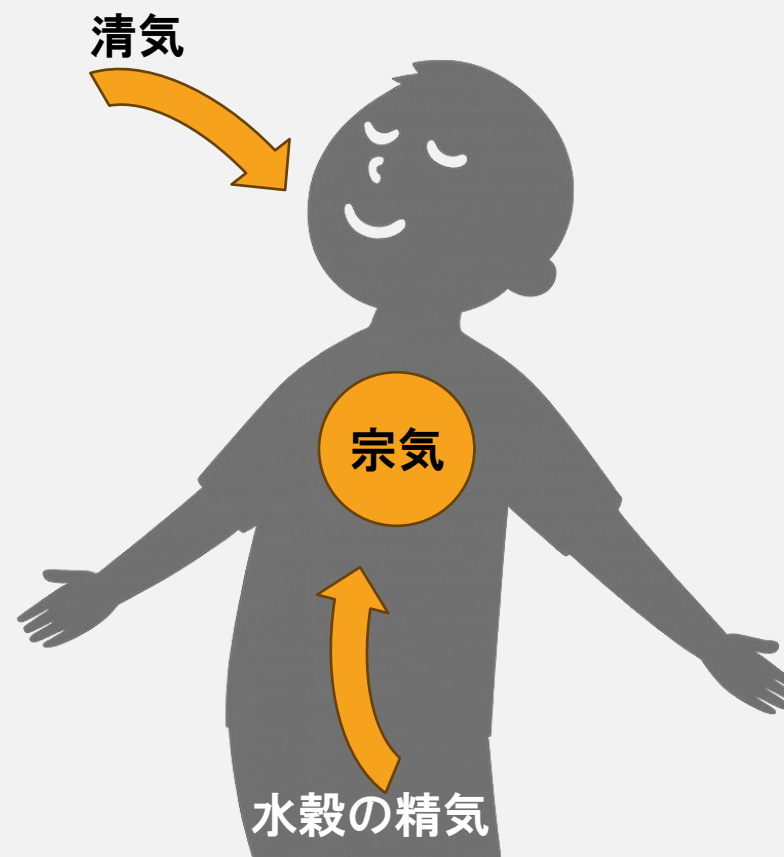
## 百脈を朝し、治節を主る

- 肺は全身の百脈が朝集するところであり、心から送り出された血を受けて、全身の経脈に気血を行き渡らせる中継点となる。
- また全身の気機を調節し、昇降出入の秩序を維持する。肺気が調暢であれば、臓腑・経脈の機能は安定し、血行・呼吸・水分代謝が円滑に営まれる。



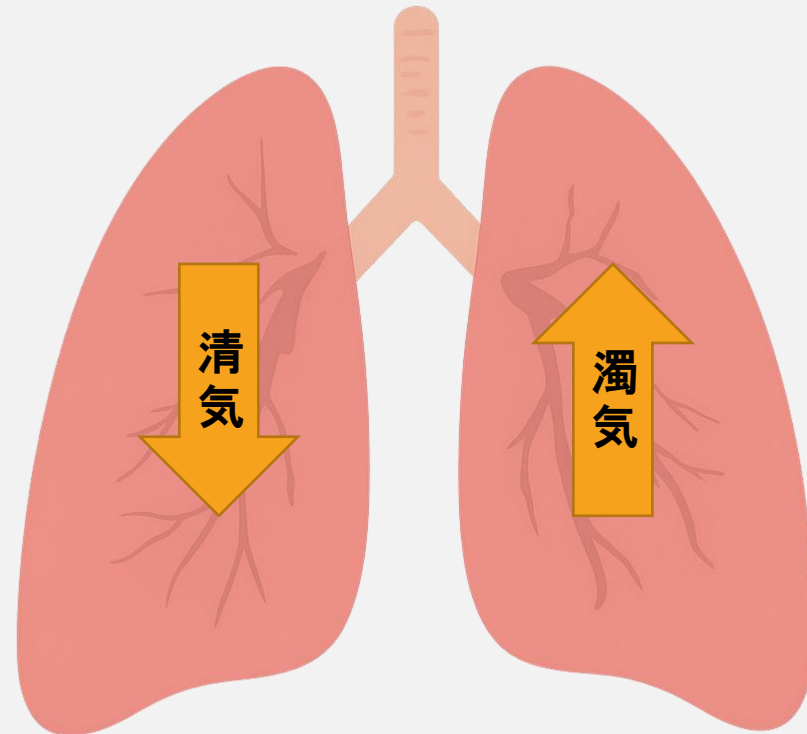
## 肺は氣を主る

- 肺は呼吸によって清氣を取り込み、水穀の精微と結合させて宗氣を生成し、これを全身に推動・宣散する中心的な臓である。そのため「肺は氣を主る」と言われる。
- 肺氣の機能
  - 宗氣の生成
  - 宣発と肅降
  - 全身氣機の調節



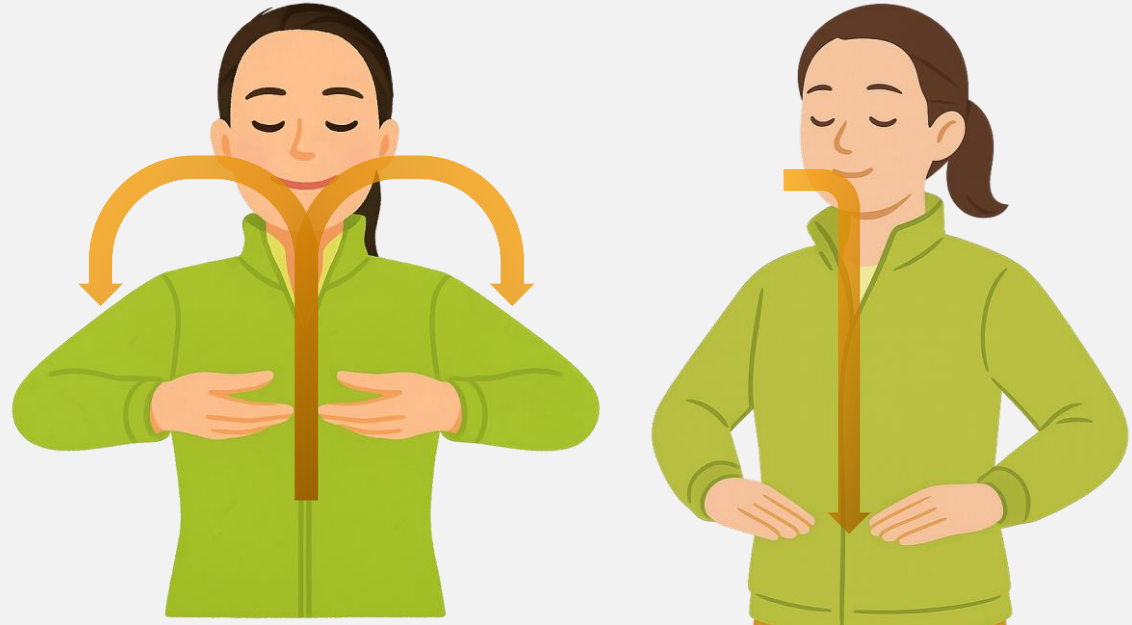
## 呼吸を司る

- 肺は外界と通じ、呼吸の出入りを調節する臓である。
- 清気を吸い込み、濁気を吐き出すことで、宗気の生成を可能にし、生命活動を維持する。
- 『素問』には「呼吸者、肺之気也」とあり、肺は呼吸の主宰であることが強調されている。



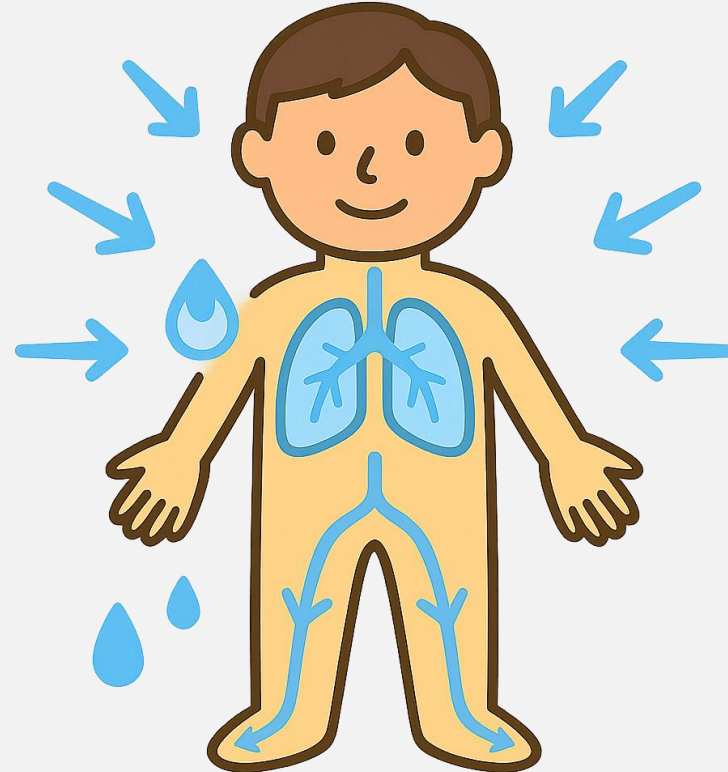
## 宣発・肅降を主る

- **宣発**：肺気を外へ発散し、衛気を皮毛に行き渡らせて外邪から防御する。また津液を体表に分布させ、汗を通じて水分代謝を調整する。
- **肅降**：肺気を下へと降ろし、水穀の精微や津液を腎・膀胱に輸送する。同時に呼吸の吸気を腎に納め、上下の気機を調和させる。



## 水道を通調する

- 肺は「水の上源」と称され、水分代謝の調整において中心的役割を果たす。  
肺気の宣発作用によって津液を体表へ散布し、汗として排泄させる。また肅降作用によって津液を下方に輸送し、腎・膀胱に達して水分の排出を助ける。
- **肺失宣発** → 水液が体表に行き渡らず、浮腫や無汗を生じる
- **肺失肅降** → 水液が下に降りず、小便不利や痰飲の停滞を生じる



## 肺の主な症状



痰



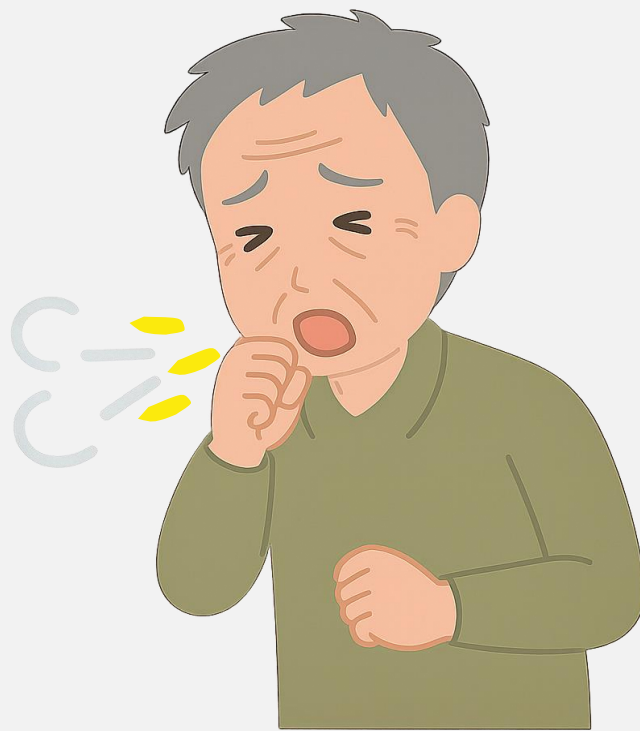
咳



息苦しさ

## 痰の分類と治法

- 痰熱
  - 清肺 + 化痰
- 寒痰（寒飲）
  - 温肺 + 化痰（化飲）



## 清肺

- 肺の熱を取ります
- 主に以下の生薬を用います
- 黄芩
- 柴胡
- 十薬
- 石膏



# 石膏

- 甘辛
- 大寒
- 清熱瀉火
- 鎮靜徐煩
- 生肌斂瘡
- 收濕



# 知母

- 苦甘
- 寒
- 清熱瀉火
- 生津止渴

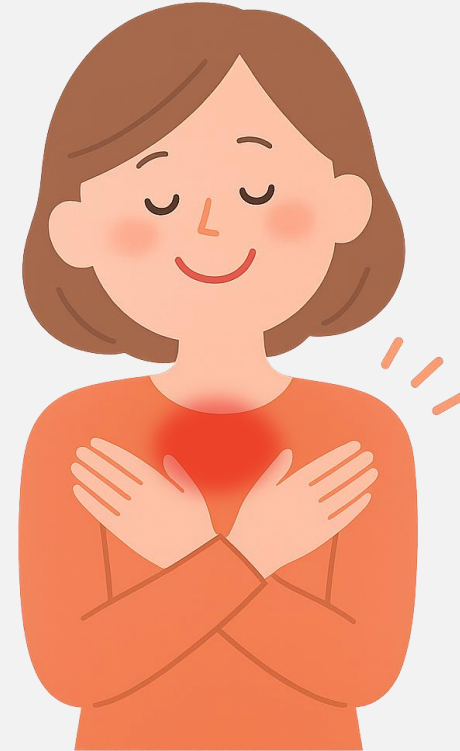


## 白虎加人參湯

石膏	甘辛	大寒	清熱瀉火	鎮靜除煩	生肌斂瘡	收濕
知母	苦甘	寒	清熱瀉火	生津止渴		
粳米	甘	平	補中益氣	健脾和胃	除煩	止痢
人參	甘微苦	平	大補元氣	補脾益肺	復脈固脫	生津
甘草	甘	平	補脾益氣	養陰止咳	緩急止痛	清熱解毒 調和諸藥

## 温肺

- 肺を温め巡りをよくします
- 主に以下の生薬を用います
- 麻黄
- 桂枝
- 乾姜
- 細辛
- 蘇葉



# 細辛

- 細辛
- 辛
- 温
- 去風散寒
- 通竅止痛
- 温肺化飲



# 麻黄

- 辛微苦
- 温
- 发汗解表
- 宣肺平喘
- 利水消肿

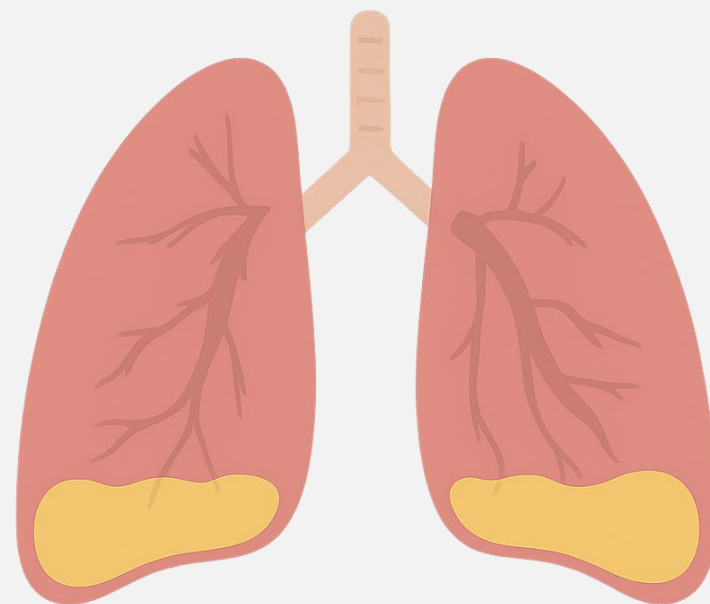


## 麻黃附子細辛湯

- 麻黃      辛微苦   温      發汗解表   宣肺平喘   利水消腫
- 附子      辛甘      大熱      補陽散寒   回陽通脈
- 細辛      辛      温      去風散寒   通竅止痛   温肺化飲

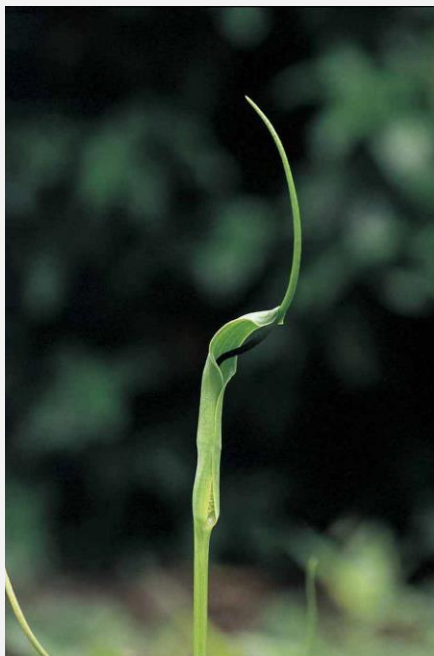
## 去痰

- 痰は粘稠であるため、理気しながら去痰します
- 主に以下の生薬を用います
- 半夏
- 陳皮
- 貝母
- 瓜呂
- 杏仁



# 半夏

- 半夏
- 辛
- 温
- 燥湿化痰
- 降逆止嘔
- 消痞散結
- 消腫止痛



## 二陳湯

- 半夏      辛      温      燥湿化痰      降逆止嘔      消痞散結      消腫止痛
- 陳皮      辛苦      温      理氣健脾      燥湿化痰
- 茯苓      甘淡      平      利水滲湿      健脾寧心
- 生姜      辛      温      解表散寒      温中止嘔      化痰止咳
- 甘草      甘      平      補脾益氣      養陰止咳      緩急止痛      清熱解毒      調和諸藥

# 栝楼仁

- 甘微苦
- 寒
- 清熱化痰
- 寬胸散結
- 清熱消腫
- 順調通便

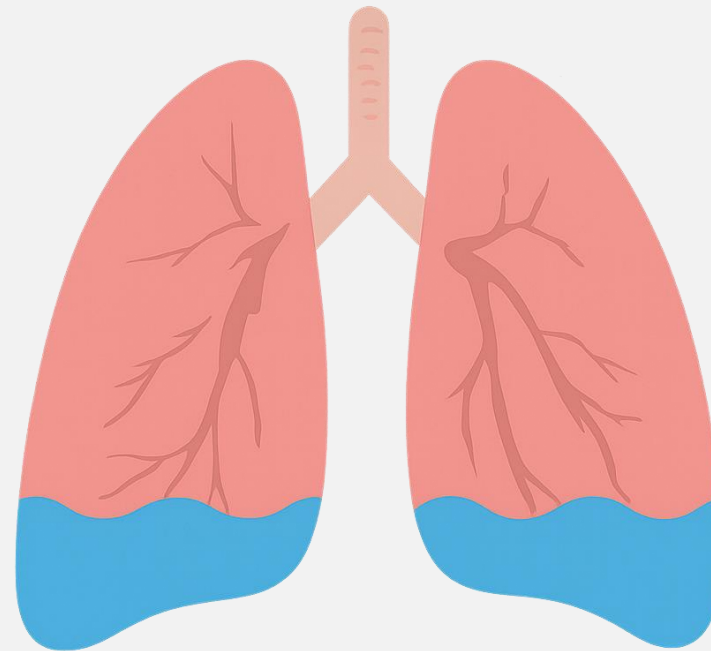


## ツムラ柴陷湯エキス顆粒(医療用)

- 柴胡 苦辛 微寒 和解表裏 疏肝解鬱 昇挙陽気
- 黄芩 苦 寒 清熱解毒 涼血 燥湿 安胎
- 半夏 辛 温 燥湿化痰 降逆止嘔 消痞散結 消腫止痛
- 生姜 辛 温 解表散寒 温中止嘔 化痰止咳
- 人参 甘微苦 平 大補元氣 補脾益肺 復脈固脱 生津
- 大棗 甘 温 補中益氣 養血安神
- 甘草 甘 平 補脾益氣 養陰止咳 緩急止痛 清熱解毒 調和諸藥
- 黄連 苦 寒 清熱解毒 燥湿 瀉火解毒
- 栝楼仁 甘微苦 寒 清熱化痰 寬胸散結 清熱消腫 順調通便

## 化飲

- 肺は冷えると痰邪より飲邪のほうが溜まりやすい。
- 飲邪に対して利水の効能をもつ生薬を用いて化飲する。
- このとき通常は冷えているので温肺を同時におこなう。



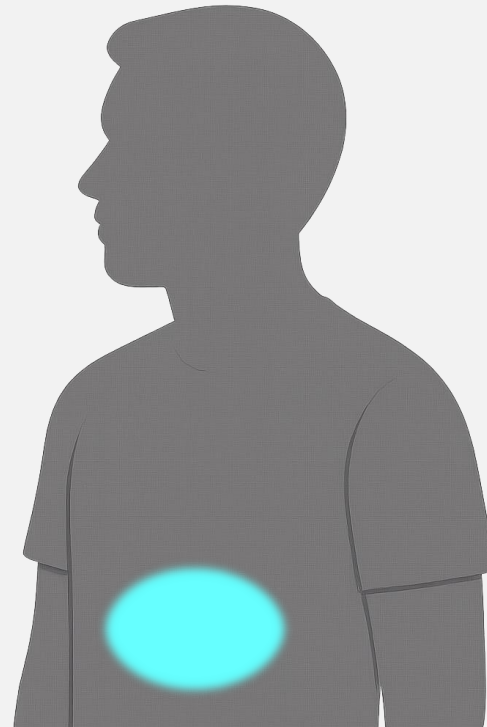
## 小青竜湯

- 麻黃 辛微苦 温 發汗解表 宣肺平喘 利水消腫
- 桂皮 辛甘 大熱 補火助陽 温經通脈 散寒止痛
- 乾姜 辛 大熱 補火助陽 温中散寒 温肺化飲
- 細辛 辛 温 去風散寒 通竅止痛 温肺化飲
- 半夏 辛 温 燥湿化痰 降逆止嘔 消痞散結 消腫止痛
- 五味子 酸甘 温 收斂固脫 益氣生津 補腎寧心
- 白芍 苦酸 微寒 柔肝止痛 養血調經 斂陰止汗
- 甘草 甘 平 補脾益氣 養陰止咳 緩急止痛 清熱解毒 調和諸藥

## 小青竜湯の原文

- 傷寒、心下に水気あり、欬して微喘し、発熱し渴せず、湯を服し已って、渴する者は、これ寒去って解せんと欲する也。小青竜湯之を主る。

『傷寒論』



# 五味子

- 五味子
- 酸甘
- 温
- **收斂固脱**
- 益氣生津
- 補腎寧心

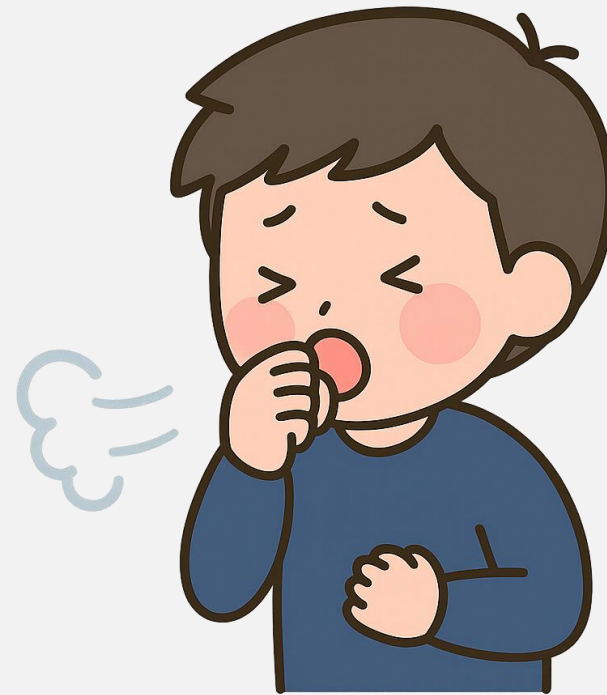


## 肺の痰飲の弁証分類と治法

弁証	治法	方剤
痰熱	清肺＋化痰	柴陷湯
寒痰	温肺＋化痰	麻黄附子細辛湯＋二陳湯
寒飲	温肺＋化飲	小青竜湯

# 咳嗽

痰あり	肺の痰邪	肺痰熱	
		肺寒痰	
痰なし	肺の乾燥	肺傷津	温燥
			涼燥
		肺陰虚	
	哮喘	熱哮	
寒哮			



## 温燥

- 症状：乾咳
- 無痰
- あるいは少量で粘稠な痰
- 咽乾
- 嗄声
- 所見：舌やや紅で乾燥、苔少
- 脈洪やや数
- 治法：生津清肺
- 方剤：麦門冬湯



## 麦門冬湯

- 麦門冬 甘微苦 微寒 養陰生津 潤肺清心
- 半夏 辛 温 燥湿化痰 降逆止嘔 消痞散結 消腫止痛
- 粳米 甘 平 補中益氣 健脾和胃 除煩 止痢
- 人參 甘微苦 平 大補元氣 補脾益肺 復脈固脫 生津
- 大棗 甘 温 補中益氣 養血安神
- 甘草 甘 平 補脾益氣 養陰止咳 緩急止痛 清熱解毒 調和諸藥

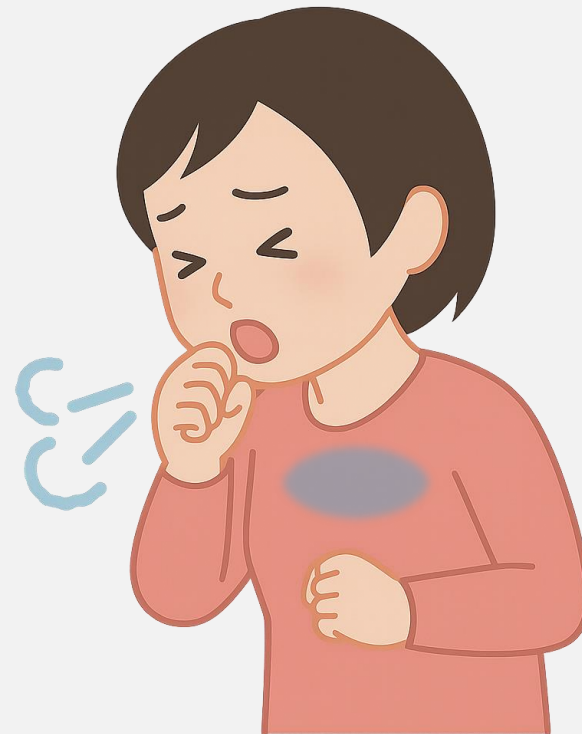
# 麦門冬

- 麦門冬
- 甘微苦
- 微寒
- 養陰生津
- 潤肺清心



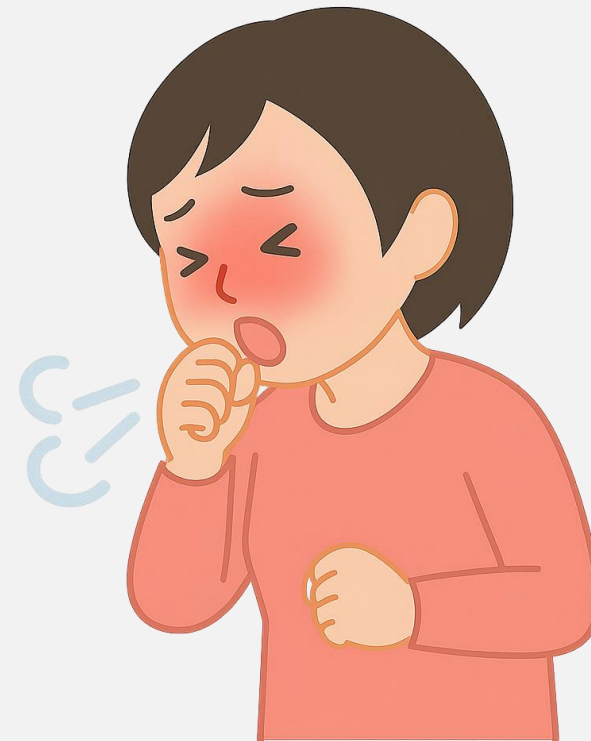
# 涼燥

- 症状：乾咳
- 無痰
- あるいは少量で粘稠な痰
- 咽乾
- 嗄声
- 所見：舌やや淡で乾燥、苔少
- 脈洪やや遅
- 治法：生津温肺
- 方剂：麦門冬湯＋麻黄附子細辛湯



## 肺陰虚

- 症状：乾咳
- 無痰
- あるいは少量で粘稠な痰
- 咽乾
- 嗄声
- 顔面の紅潮
- 寝汗
- 五心煩熱
- 所見：舌紅絳で乾燥、 苔少
- 脈細数

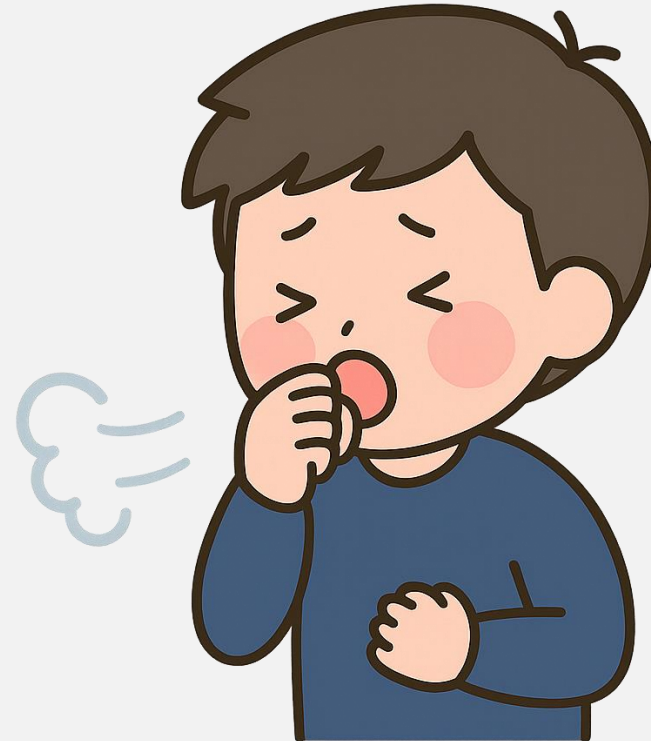


## 麦味地黄丸

- 麦門冬 甘微苦 微寒 養陰生津 潤肺清心
- 五味子 酸甘 温 收斂固脫 益氣生津 補腎寧心
- 熟地黄 甘 微温 益精填髓 滋陰養血
- 山茱萸 酸澁 微温 補益肝腎 收澁固脫
- 山藥 甘 平 補脾養胃 生津益肺 補腎澁精
- 沢瀉 甘 微寒 利水消腫 清泄湿熱
- 茯苓 甘淡 平 利水滲湿 健脾寧心
- 牡丹皮 苦甘 寒 清熱涼血 活血化瘀

# 哮喘

哮	発作性に起こる喘鳴と呼吸切迫で、呼吸促迫時に水鳥の鳴くような声が出るのが特徴
喘	呼吸が忙しく速くなる病証で、気喘、上気喘、喘逆、喘急、喘促、喘息ともいう



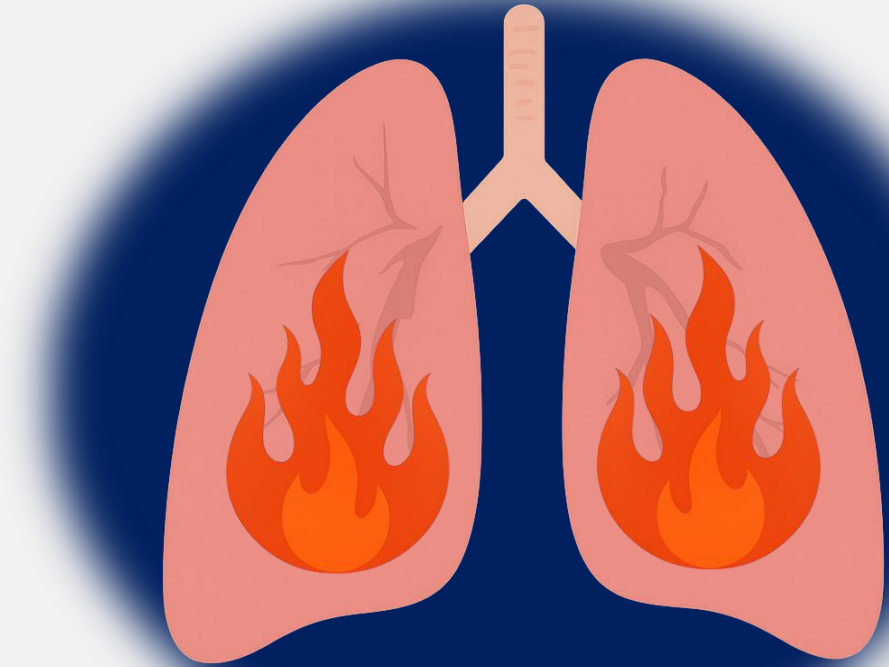
## 哮喘は大半が熱哮

- 寒い夜に発作がしやすい傾向があります。
- その場合寒邪の影響が疑われますが、実際の臨床では清熱、宣肺の麻杏甘石湯が有効なことが多いです。



## 寒包火

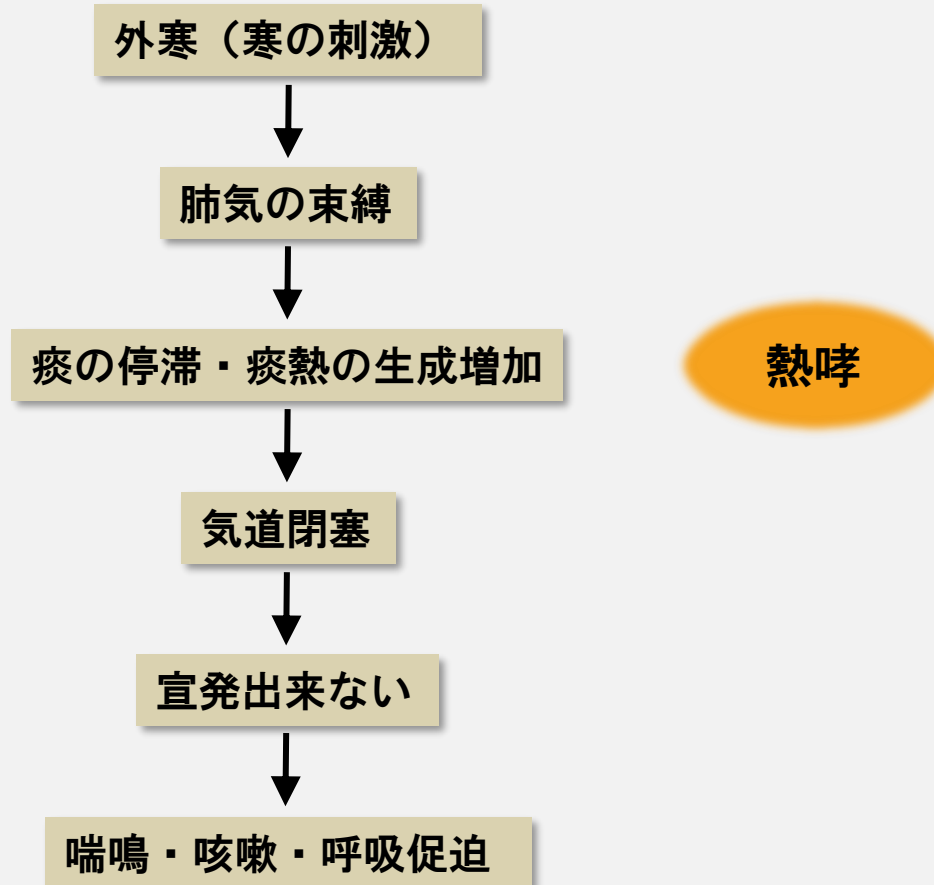
- 外寒の束縛により内にこもった熱が発散できず、寒と火が同時に存在する病機を指す。



# 喘息の西洋医学的な病態生理

- **慢性炎症**
  - 気道は常に軽度の炎症が続いている。
  - 好酸球、Tリンパ球、好中球などが集まり、炎症性サイトカインを放出する。
  - このため気道粘膜が敏感になり、わずかな刺激でも反応しやすくなる。
- **気道過敏性**
  - 健康な人なら反応しないような冷気・ホコリ・運動などの刺激でも、気道が収縮しやすい。
  - 結果として咳・喘鳴・呼吸困難を起こす。
- **気道狭窄（可逆性）**
  - 平滑筋が急に収縮することで気道が細くなる。
  - 粘液分泌が増えて痰がたまることも、気道を塞ぐ要因となる。
  - 発作が治まればある程度もとに戻る（＝可逆性）。

# 哮喘の中医学的な病態生理



## 麻杏甘石湯

- 麻黃 辛微苦 溫 發汗解表 宣肺平喘 利水消腫
- 杏仁 苦 微溫 止咳平喘 潤腸通便 殺虫止痒
- 甘草 甘 平 補脾益氣 養陰止咳 緩急止痛 清熱解毒 調和諸藥
- 石膏 甘辛 大寒 清熱瀉火 鎮靜徐煩 生肌斂瘡 收濕

# 杏仁

- 苦
- 微温
- 止咳平喘
- 潤腸通便
- 殺虫止痒



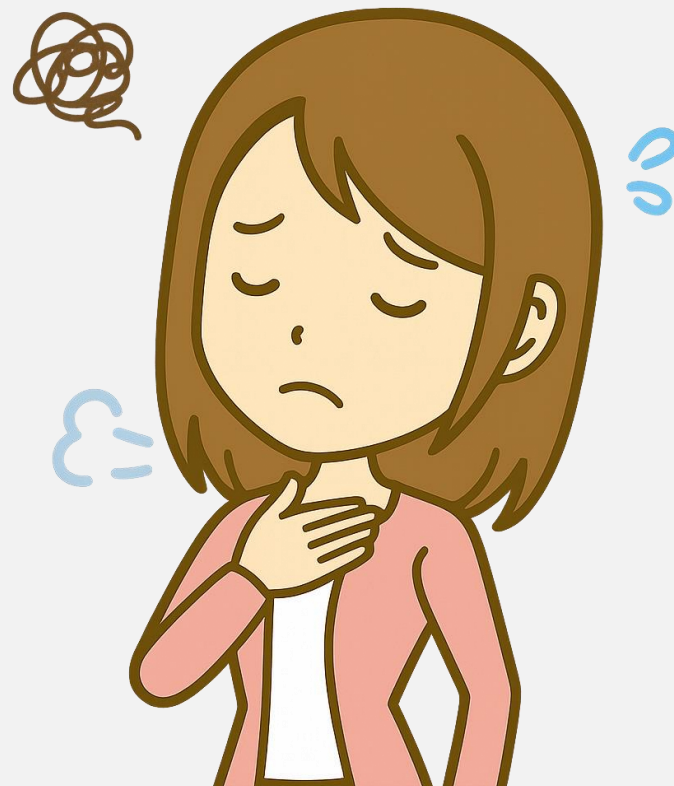
## 息苦しさ

- 気管狭窄のある場合
  - 喘息・・・麻杏甘石湯
  - その他・・・本治+麻杏甘石湯
    - 腫瘍
    - 上気道炎
    - 慢性気管支炎など



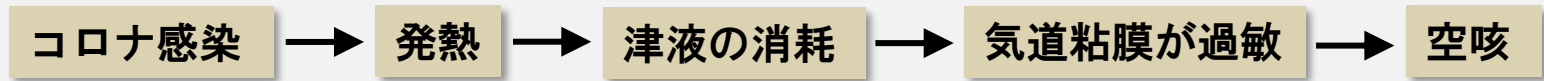
## ケーススタディ

- 23歳女性。10日前から発熱、咽頭痛、咳、翌日から痰も出てきたため、同日発熱外来を受診したら、検査でコロナ陽性だった。
- 処方された薬を飲んでだいぶ良くなったが、咳だけが良くならない。咳は空咳、痰は絡む感じはあるが出ない。のど飴をなめると楽になる。
- 脈やや洪 舌淡紅やや乾燥 苔微黄



# 症例分析

<病態>



<弁証> 肺傷津

<治法> 潤肺止咳

<方剤> 麦門冬湯

## 麦門冬湯

- 麦門冬 甘微苦 微寒 養陰生津 潤肺清心
- 半夏 辛 温 燥湿化痰 降逆止嘔 消痞散結 消腫止痛
- 粳米 甘 平 補中益氣 健脾和胃 除煩 止痢
- 人參 甘微苦 平 大補元氣 補脾益肺 復脈固脫 生津
- 大棗 甘 温 補中益氣 養血安神
- 甘草 甘 平 補脾益氣 養陰止咳 緩急止痛 清熱解毒 調和諸藥

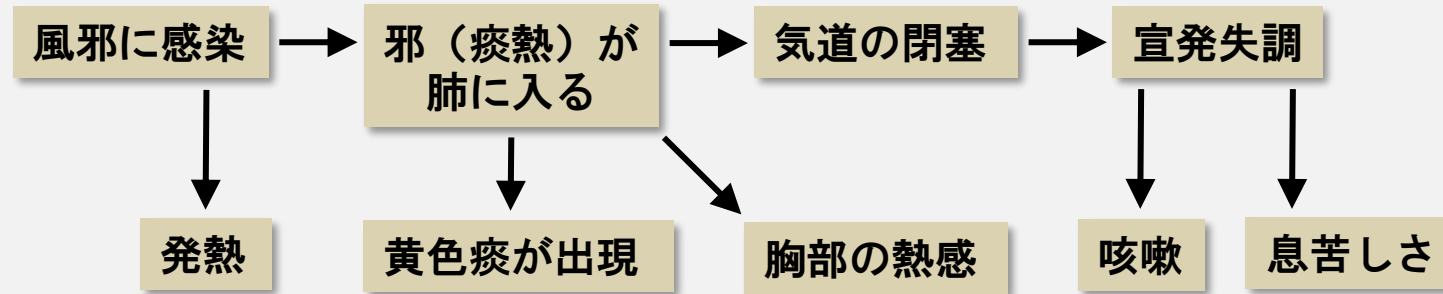
## ケーススタディ

- 35歳男性、5日前から風邪を引いて咳、痰が出ているが、悪化しているため受診。
- 痰は黄緑色で多い。胸が息苦しく感じることもある。熱は微熱だが胸が熱く感じることもある。
- 脈滑数 舌淡紅 苔黄膩



# 症例分析

## <病態>

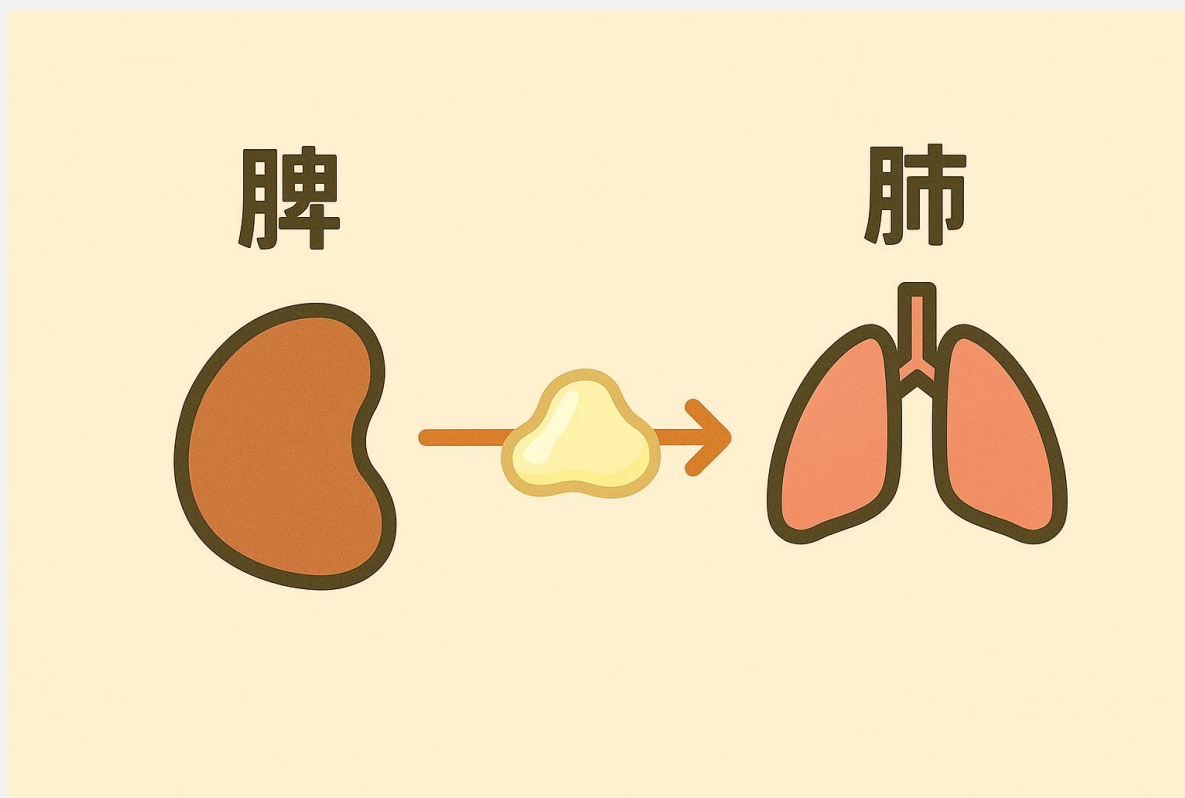


<弁証> 痰熱壅肺

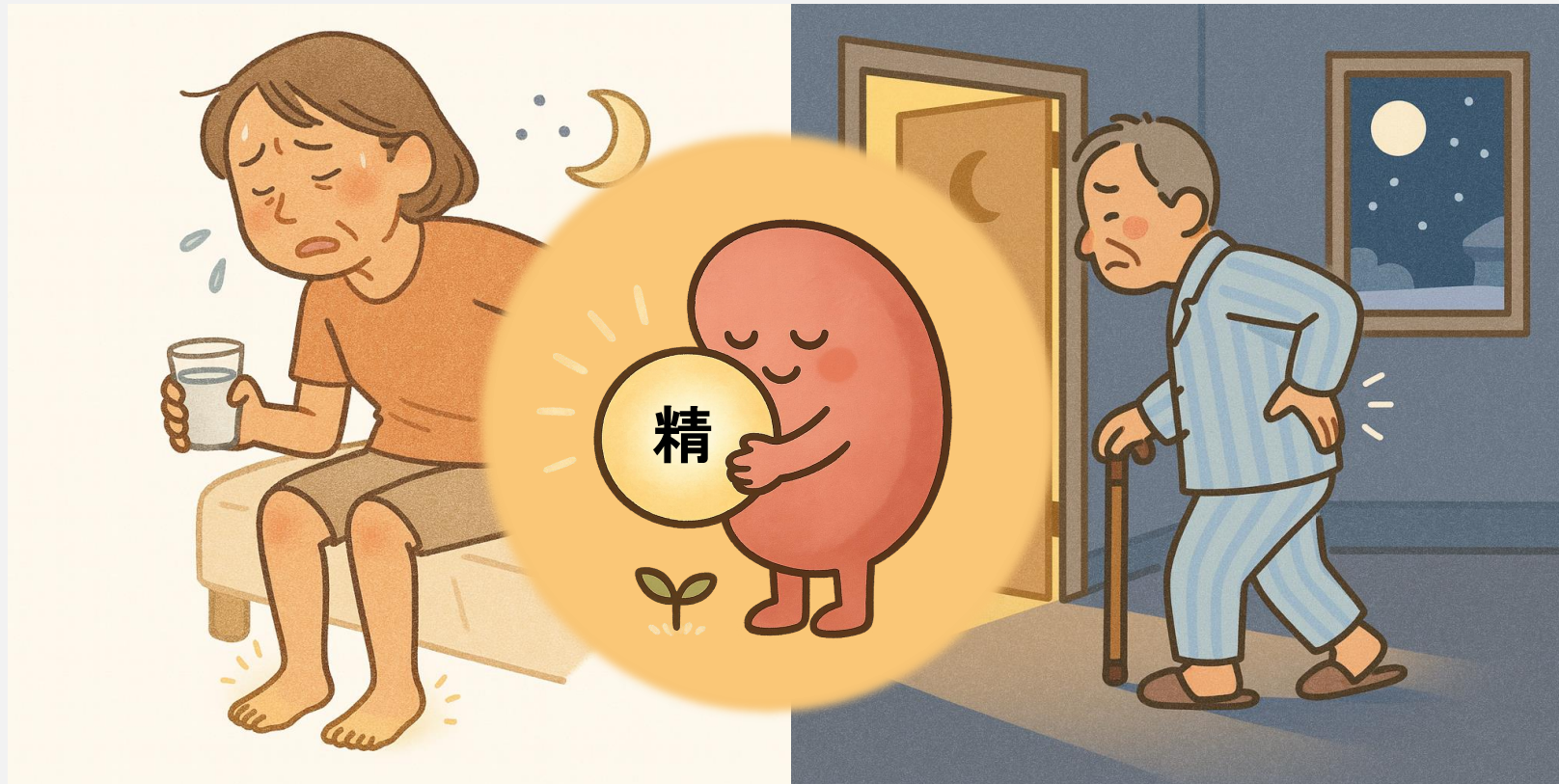
<治法> 清熱化痰、宣肺

<方劑> 柴陷湯＋麻杏甘石湯

脾は生痰の源、肺は貯痰の器



## 腎の弁証

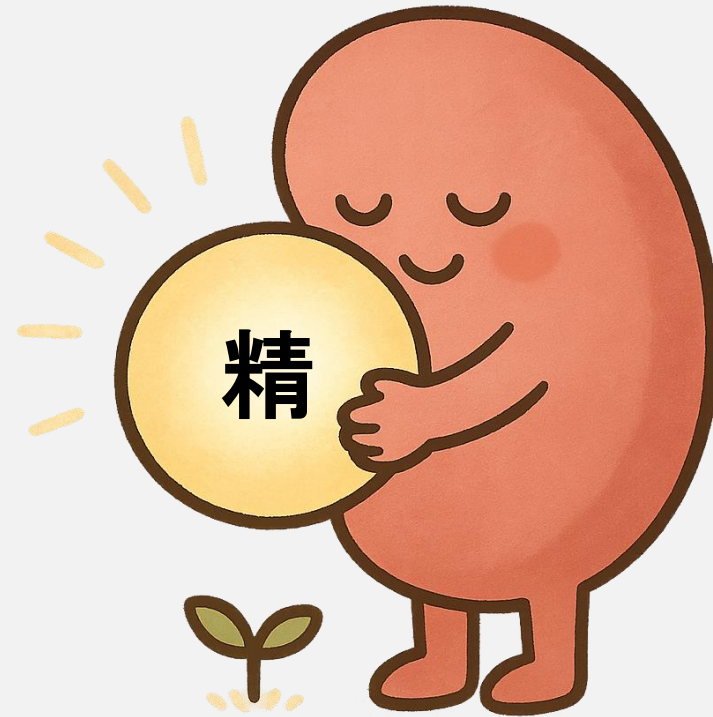


## 腎の生理

- 精を蔵する
  - 生殖・発育を主る
  - 先天の本である
  - 水を主る
  - 骨を主り、髓を生ず
  - 二陰を主り、開闔を司る
  - 封蔵を主る
  - 納気を主る
- 華は髪にある
  - 耳に開竅する
  - 唾は腎液である
  - 志は恐である

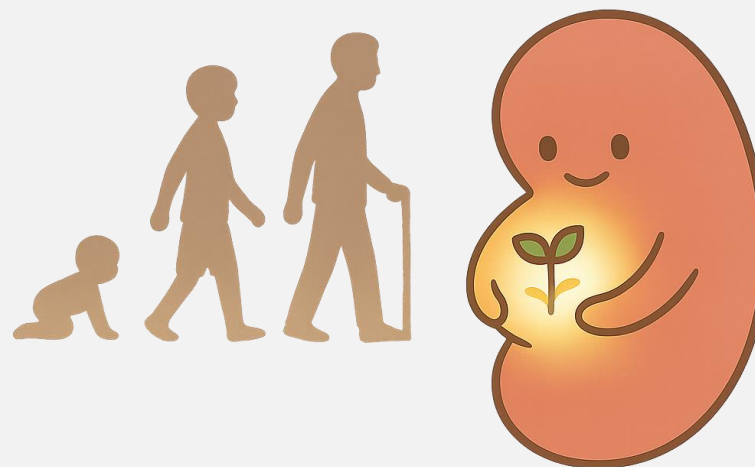
## 精を蔵する

- 腎は人が生まれるときに父母から受け継いだ精をたくわえ、これを一生の生命活動の根本としている。
- この精は体を育てる力であり、臓腑や気血津液を生み出す源でもある。
- 精がしっかりしていれば体力が充実し、抵抗力や免疫力も高まる。逆に精が不足すると、疲れやすい、病気にかかりやすいといった症状が現れる。



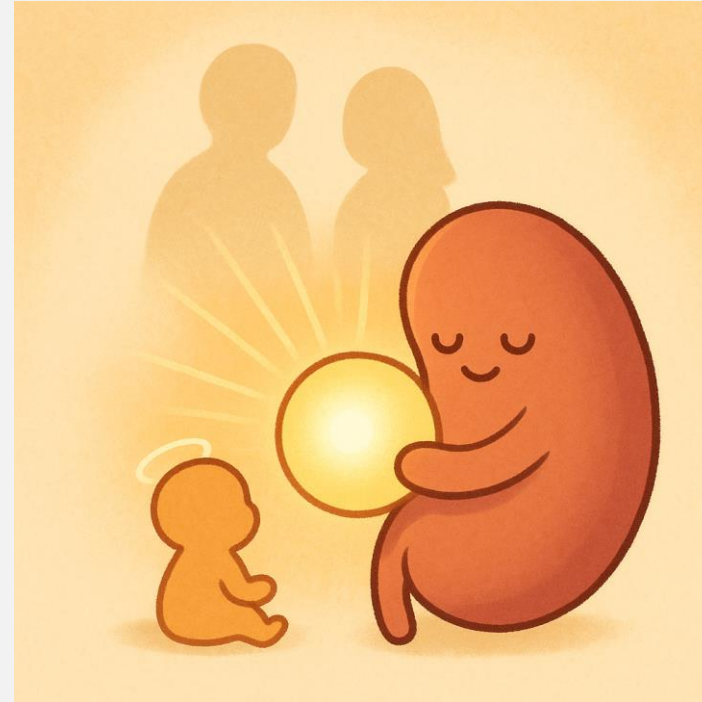
## 生殖・発育を主る

- 腎に蓄えられた精は、子どもの発育を促し、思春期には第二次性徴をもたらす。
- 大人になれば生殖機能を支える力となり、男女ともに生殖能力は腎精の盛衰によって左右される。
- 加齢とともに腎精は減少し、髪が白くなったり、歯が抜けたり、体力が落ちたりする。



## 先天の本である

- 腎は「先天の本」と呼ばれる。これは父母から受け継いだ精をもとに命が始まり、人生を通じてその精が生命力の土台となることを意味する。
- 一方で、脾胃は「後天の本」と呼ばれ、飲食物から得られる精微を腎に補給する。
- したがって、腎は先天と後天の両方の力によって養われ、全身の生命活動を支える役割を果たしている。

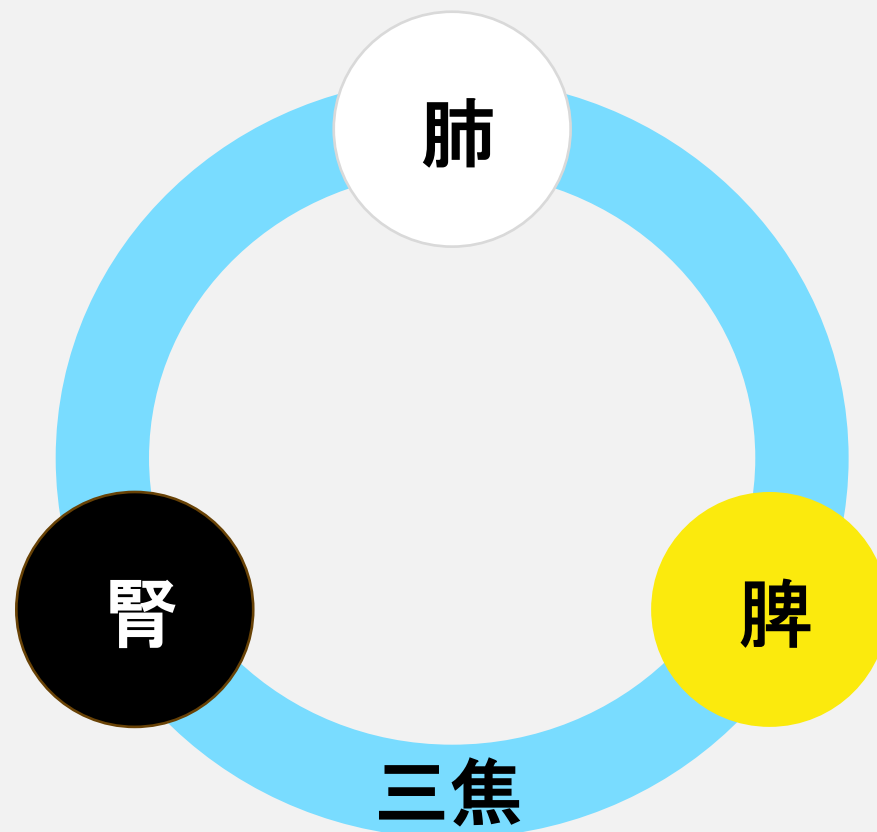


## 水を主る

- 腎は体内の水分代謝を調整する中心的な臓器である。
- 肺や脾、三焦と協力して水の流れを管理し、必要な水分は保持し、不要な水分は膀胱から排出させる。
- もし腎の機能が弱まれば、むくみや小便の異常、逆に小便が出にくいといった症状が起こる。

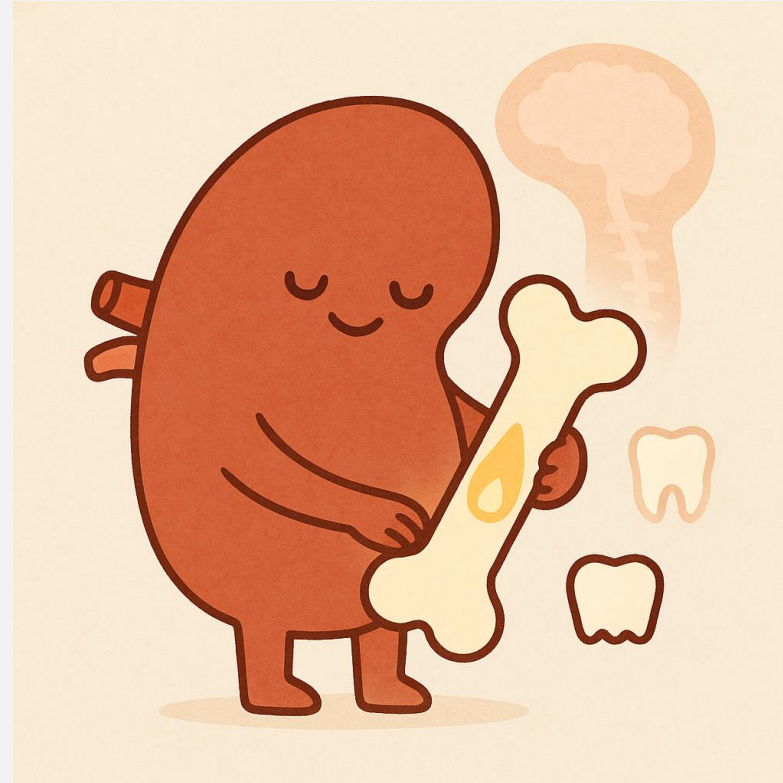


## 水分代謝に関わる主な臓腑



## 骨を主り、髓を生ず

- 腎精は骨格の発育や強さに深く関わっており、骨を丈夫にする力の源である。
- また、精から生じた髓は脳や脊髄を満たし、思考力や記憶力を支える。
- 歯や髪も腎の盛衰と関係があり、腎精が充実していれば骨は強く歯も丈夫で髪も黒々している。
- 反対に腎精が不足すると骨がもろくなり、歯が抜けやすく、記憶力の低下や認知機能の衰えが現れる。



## 二陰を主り、開闔を司る

- 腎は大小便をつかさどる二つの陰部（小便を出す前陰と、大便を出す後陰）の働きを調える。
- 必要なときに開いて排泄させ、普段はしっかり閉じて漏れを防ぐ。この開閉の調節が「開闔」である。
- 腎の力が十分なら排尿や排便は正常に行われるが、腎気が衰えると夜間頻尿や尿漏れ、あるいは大便の失禁などが生じやすくなる。



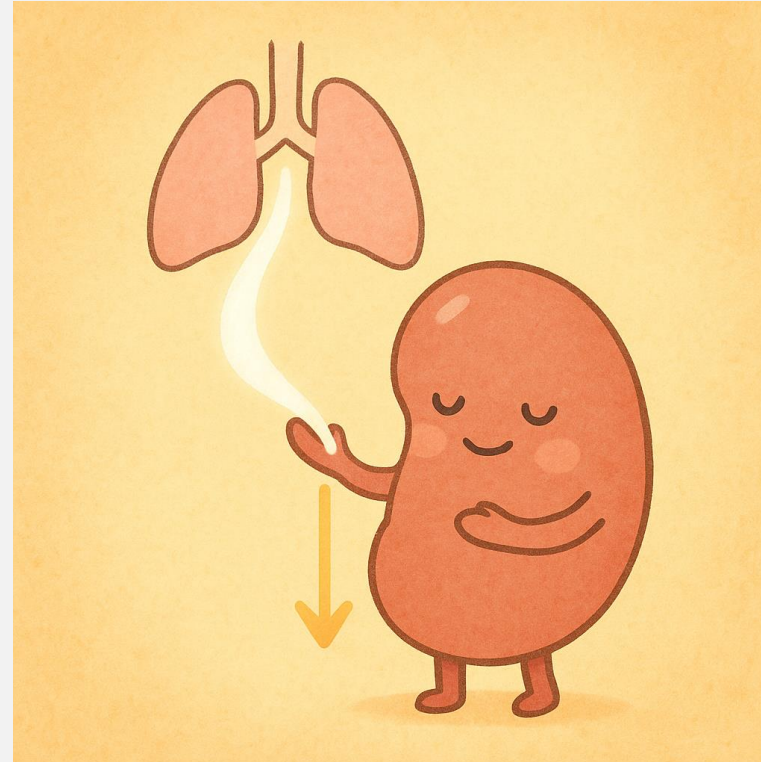
## 封蔵を主る

- 腎には精をしっかりと守り、体外へ漏らさない働きがある。これを「封蔵」と呼ぶ。
- 封蔵の力が健全であれば、精は腎内にとどまり、体の根本的な力が保たれる。
- しかし腎の封蔵作用が弱いと、遺精や早漏、尿が漏れるといった症状が出てしまう。



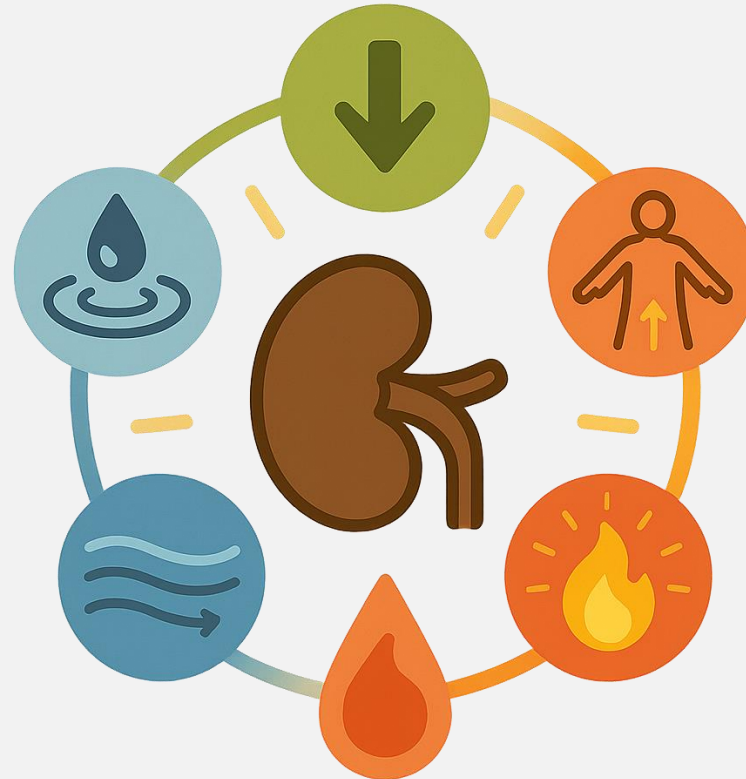
## 納気を主る

- 腎は呼吸に関わり、吸い込んだ空気を体の奥に引き込む役割を持っている。これを「納気」という。
- 肺が息を取り入れても、腎の納気作用が弱いと十分に吸い込めず、呼吸が浅くなったり息切れが起こったりする。
- 特に慢性的な咳や喘息の患者で「呼多吸少」といわれる症状は、腎の納気を主る力の不足を示す。



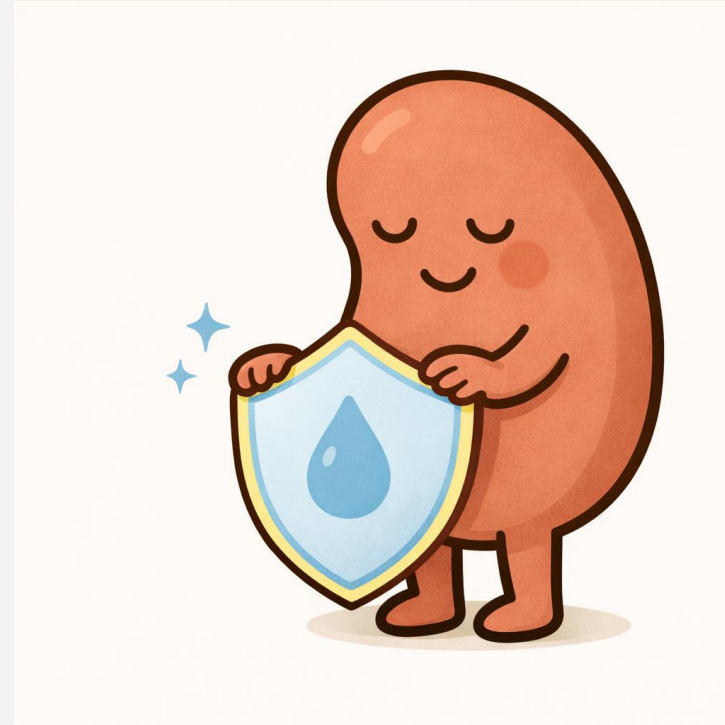
# 腎の治法

- 収斂固澁
- 利水
- 補陰
- 補陽
- 通絡



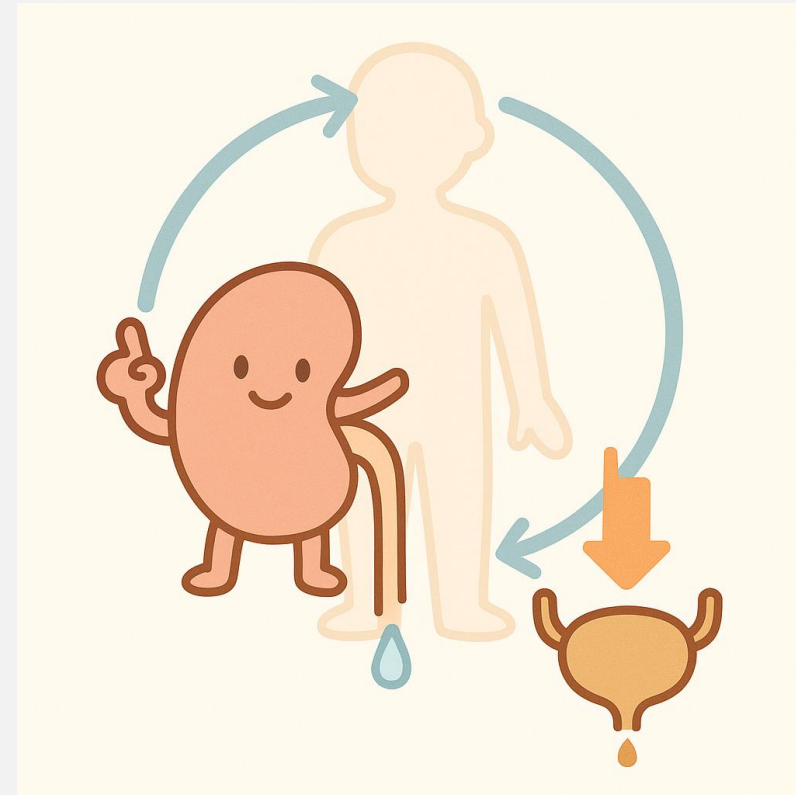
## 収斂固澁

- 体の中から必要な精気や津液が漏れ出ないように引き締め、しっかりと保つ働きのことをいう。
- 主に止汗・固精・止遺尿などの目的で用いられ、身体の根本を守る重要な作用とされている。



## 利水

- 腎は水を主り、三焦を経て腎に巡ってきた津液を清濁に分け、清は引き続き全身に送り、濁は膀胱に送ります。
- もし濁がスムーズに排泄できなかったり、体内に溜まるときは利水の生薬を用いて治療します。



## 教科書的な陰と陽の生理機能

陰	陽
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 滋潤作用と寧静作用 （新版東洋医学概論）</li><li>・ 涼潤（中医学入門）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 温煦作用と推动作用 （新版東洋医学概論）</li><li>・ 温煦作用（中医学入門）</li></ul>
涼潤作用と寧静作用	温煦作用と推动作用

## 陰陽の再考

- 陰陽とは具体的な物質ではなく、事物の属性や機能を高度に抽象した概念である。陽は主に**能動、温熱、興奮、外へ発散**する性質を表し、陰は静を主とし、**寒涼、抑制、内へ凝集**する性質を示す。人体においては、陰と陽がともに生命活動の正常な運行を維持している。陽気は機能的な活動や代謝過程を主導し、体温の維持や四肢の運動に関わる。陰気は物質的な基盤と内面的な滋養をつかさどり、体液の分泌や組織の修復を担っている。

広州医科大学附属第一医院 武志娟

[https://m.baidu.com/bh/m/detail/ar\\_17576418486267107853](https://m.baidu.com/bh/m/detail/ar_17576418486267107853)

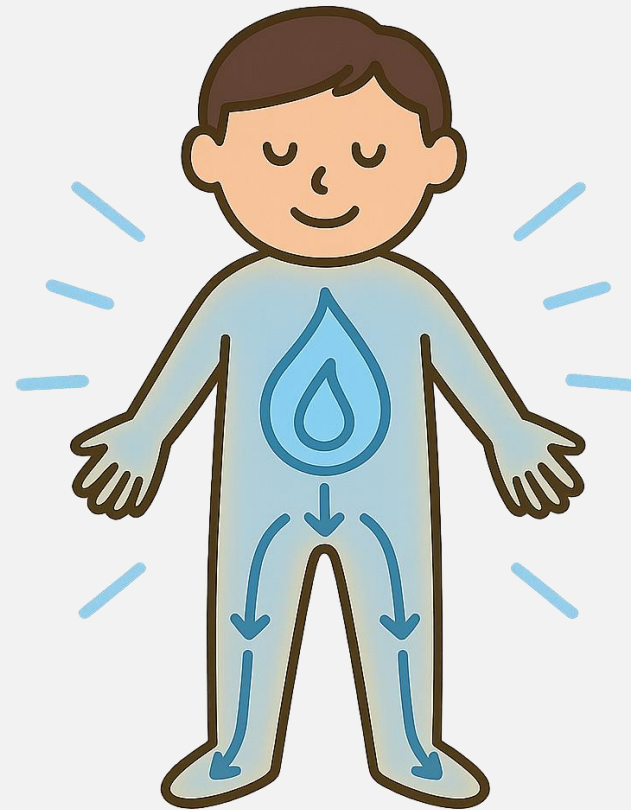
## 陰陽の再考

- 陽：能動、温熱、興奮、外へ発散  
の働きをもつ物質
- 陰：滋潤、寒涼、抑制、内へ凝集  
の働きをもつ物質



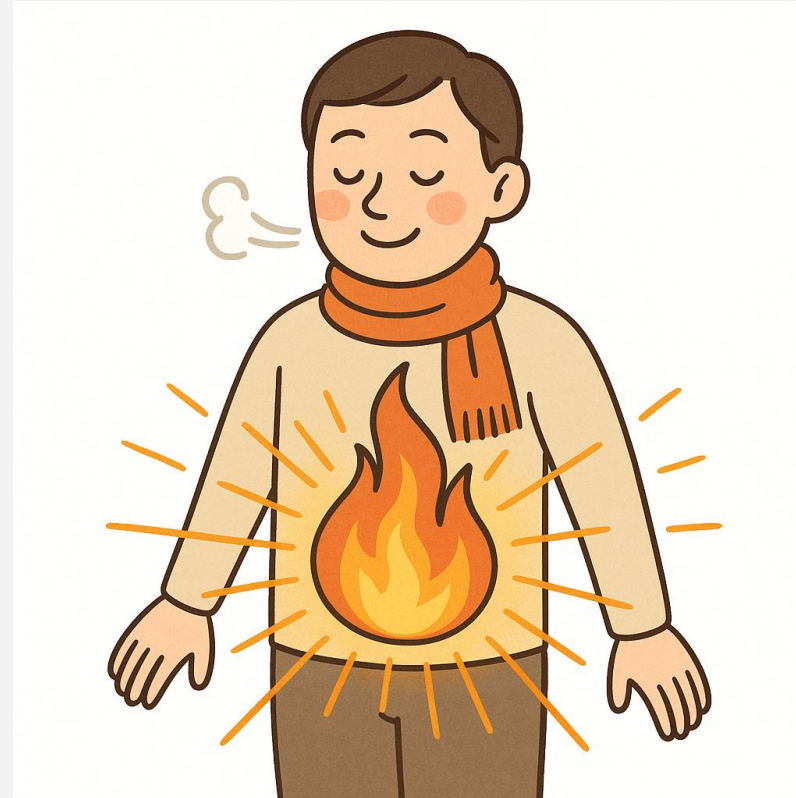
## 補陰

- 各組織を潤したり、栄養を与えることで物質的な基礎を作る重要な物質。
- さらに体をクールダウンしたり、精神的及び肉体的な活動性を抑制して陰陽のバランスをとる。



## 補陽

- 補陽と補陰は陰陽のバランスを整える働きがある。
- 人間の体は陰陽が基本であり、陰陽が整うことで、気血津液が本来の機能を発揮できる環境が整う。
- 冷えがある場合は補陽をおこなうことで体を温め気血心化気の巡行をより活発にすることが出来る。



## 通絡

- 補陽の生薬の多くは辛味が  
がり、辛みは基本的に気  
を走らせる性質を持つ。
- そのためこれらの生薬を  
用いることにより温め、  
辛みの性質で気を巡らせ  
通絡することが出来る。
- 附子はその代表薬である。

通じざれば則ち痛み、  
通ずれば則ち痛まず



## 腎陰虚

- 症状：膝や腰がだるい  
火照り、両頬の紅潮  
潮熱、盗汗、  
五心煩熱  
喉の乾燥
- 所見：脈細数 舌紅絳 苔少
- 治法：滋陰清熱
- 方剂：知柏地黄丸



## 知柏地黄丸

- |       |    |    |      |         |      |
|-------|----|----|------|---------|------|
| • 熟地黄 | 甘  | 微温 | 益精填髓 | 滋陰養血    |      |
| • 山茱萸 | 酸渋 | 微温 | 補益肝腎 | 收澁固脱    |      |
| • 山藥  | 甘  | 平  | 補脾養胃 | 生津益肺    | 補腎澁精 |
| • 沢瀉  | 甘  | 微寒 | 利水消腫 | 清泄湿熱    |      |
| • 茯苓  | 甘淡 | 平  | 利水滲湿 | 健脾寧心    |      |
| • 牡丹皮 | 苦甘 | 寒  | 清熱涼血 | 活血化瘀    |      |
| • 知母  | 苦甘 | 寒  | 清熱瀉火 | 生津止渴    |      |
| • 黄柏  | 苦  | 寒  | 清熱解毒 | 涼血 解毒疗瘡 |      |



第2類医薬品

イスクラ 瀉火補腎丸  
(しゃかほじんがん)

## 熟地黄

- 甘
- 微温
- 益精填髓
- 滋陰養血

九蒸九晒の物が質  
が良いとされる



# 腎陽虚

- 症状：膝や腰がだるい  
寒がる  
四肢の冷え  
頻尿  
浮腫
- 所見：脈沈無力 舌淡白 苔白滑
- 治法：温腎補陽
- 方剂：八味地黄丸



## 八味地黄丸

- 熟地黄 甘 微温 益精填髓 滋陰養血
- 山茱萸 酸涩 微温 補益肝腎 收涩固脱
- 山藥 甘 平 補脾養胃 生津益肺 補腎涩精
- 沢瀉 甘 寒 利水消腫 清泄湿熱
- 茯苓 甘淡 平 利水滲湿 健脾寧心
- 牡丹皮 苦甘 微寒 清熱涼血 活血化瘀
- 桂皮 辛甘 大熱 補火助陽 温經通脈 散寒止痛
- 附子 辛甘 大熱 補陽散寒 回陽通脈

# 炮附子

- 辛甘
- 大熱
- 補陽散寒
- 回陽通脈



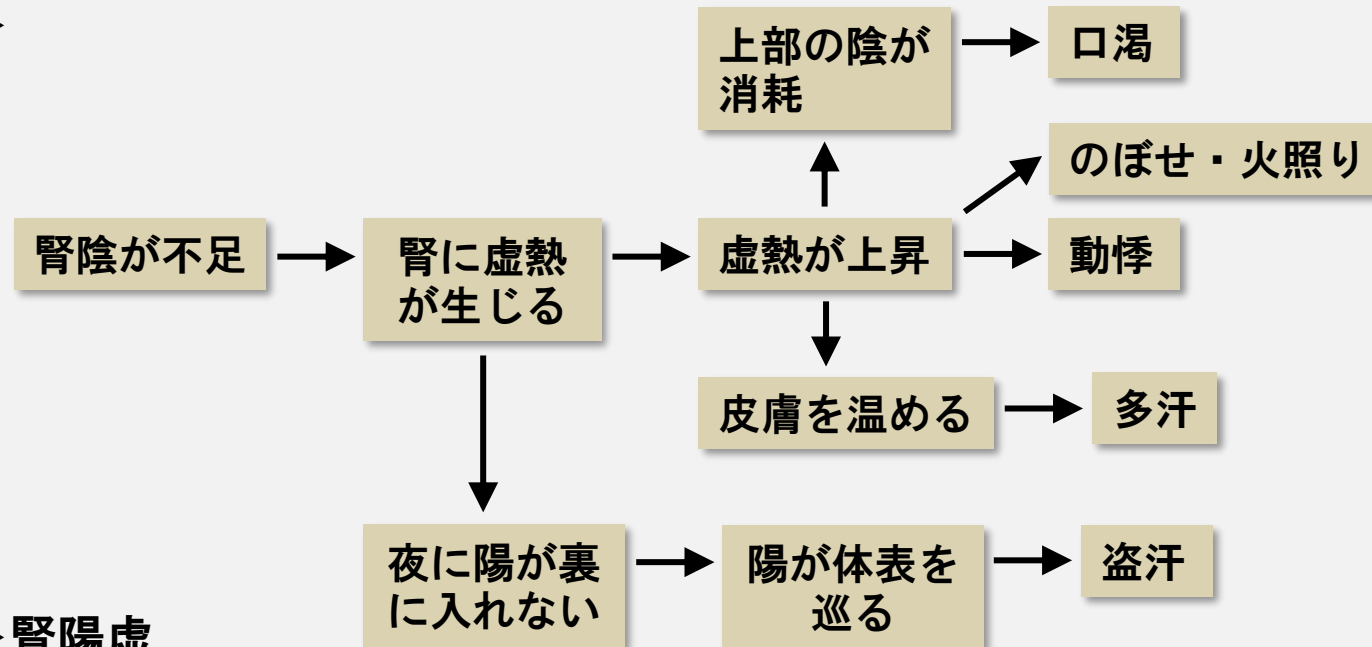
## ケーススタディ（のぼせ）

- 54歳女性、半年前からのぼせ、火照りが出現し頭にすごく汗をかくようになった。寝汗もかく。喉もよく乾く。動悸も時々でる。
- 脈細数 舌紅絳 苔少



# 症例分析

<病態>



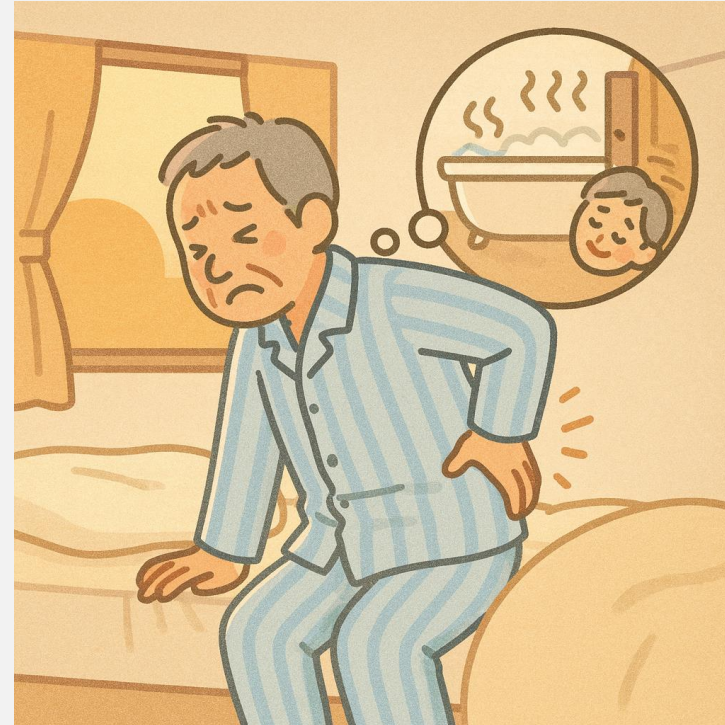
<弁証> 腎陽虚

<治法> 温補腎陽 収斂固澁

<方剂> 八味地黄丸

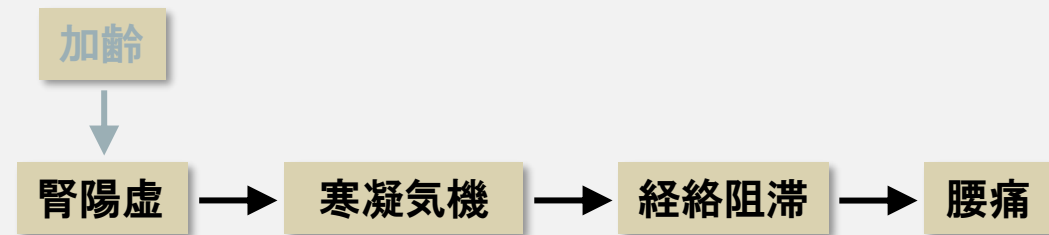
## ケーススタディ（腰痛）

- 62歳男性、2年前から慢性的な腰の痛み、だるさがある。朝起きたときも腰が固まって動きづらい。整形外科で検査を受けたが明かな異常はなかった。痛みはフロに入ると楽になる。足の痺れはない。
- 脈沈弦 舌やや淡白 舌薄白



# 症例分析

<病態>



<弁証> 腎陽虛

<治法> 温補腎陽 通絡止痛

<方劑> 八味地黄丸

## ケーススタディ（夜間頻尿）

66歳男性、数年前から夜中トイレに起きることが多くなり、今は毎日3、4回トイレに起きる。日中の頻尿はない。冬になると回数が増える傾向がある。3年前から腰痛があり坐骨神経痛と診断されている。

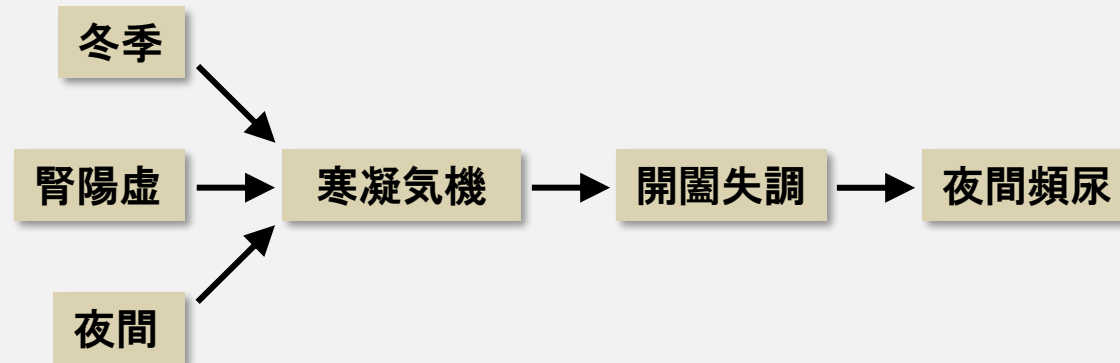
脈沈

舌淡白 苔薄白



# 症例分析

<病態>



<弁証> 腎陽虛

<治法> 補陽溫腎 收斂固澁

<方劑> 八味地黄丸

## 八味地黄丸

- 熟地黄 甘 微温 益精填髓 滋陰養血
- 山茱萸 酸涩 微温 補益肝腎 收涩固脱
- 山藥 甘 平 補脾養胃 生津益肺 補腎涩精
- 沢瀉 甘 寒 利水消腫 清泄湿熱
- 茯苓 甘淡 平 利水滲湿 健脾寧心
- 牡丹皮 苦甘 微寒 清熱涼血 活血化瘀
- 桂皮 辛甘 大熱 補火助陽 温經通脈 散寒止痛
- 附子 辛甘 大熱 補陽散寒 回陽通脈

ご清聴ありがとうございました。

いが漢方内科金のさじ診療所

伊賀文彦